

ＣＤＴライン試験器 データ比較ソフトウェア

CDT CONPARISON

取扱説明書

★ はじめに

この度は「CDT CONPARISON」をご利用いただき、ありがとうございます。本ソフトウェアのご利用にあたっては、以下の「ソフトウェア使用許諾条項」及び「注意事項」を必ずお読みください。また、本ソフトウェアを正しく使用するために、本取扱説明書に書かれている内容は必ずお読みください。

★ ソフトウェア使用許諾条項

以下の各条項に同意される場合に限り、本ソフトウェアの使用を許諾するものとします。また、本ソフトウェアの使用開始をもって、以下の各条項に同意されたものとさせていただきます。

１．使用許諾

古通エンジニアリング有限会社（以下「弊社」）は、お客様に対し、本使用許諾条項に定める条件の下で、本ソフトウェアの使用権を許諾します。

２．使用許諾の範囲

お客様は。バックアップ等、本ソフトウェアを使用する上で最低限必要な本数に限り、本ソフトウェアを複製することができます。本使用許諾条項で許された場合を除き、本ソフトウェアの全部または一部を使用、複製、改変、加工その他の変更はできません。また、第三者に貸与または譲渡はできません。

３．著作権

本ソフトウェア及びマニュアル等の著作権は弊社が所有するものであり、お客様にには、この使用許諾条項により許諾される本ソフトウェアの使用権以外に何らの権利も発生しません。

４．契約期間

本ソフトウェアの使用許諾は、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点から始まります。

５．保証

弊社は、お客様に対し、本ソフトウェアに欠陥がないこと、その他本ソフトウェアに関していかなる保証も致しません。

６．免責

弊社はいかなる場合も、本ソフトウェアに関連して生じた、お客様の逸失利益、特別な事情から生じた損害（損害発生につき弊社が予見し、または予見し得た場合を含む）及び第三者からお客様に対してなされた損害賠償に基づく直接または間接の損害について、事由の如何を問わず一切責任を負いません。

７．契約の解除

お客様が本使用許諾条項のいずれかに違反したときは、直ちに契約を解除し、本

ソフトウェア及びその複製をすべて破棄するものとします。

８．その他

本ソフトウェアを日本国外に持ち出すことはできません。

★ 注意事項

・ 本書の内容を全部または一部を無断で転載することは、禁止されています。
・ 本書の内容は、将来予告無しに変更することがございます。
・ 本取扱説明書で説明されている内容は、一部に専門用語も使用されていますので、もし、ご理解できない場合は、ご遠慮なく当社までお問い合わせください。
・ 本書の中で使用している会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。

１．概要

本ソフトウェア「CDT CONPARISON」は、弊社製品「ＦＥＡ－０２８」を２台使用して、受信データの比較を行うためのソフトウェアです。
２台の「ＦＥＡ－０２８」から送られてくる受信データを解析し、双方一致しているか不一致かを自動で判定することが出来ます。「手動判定」選択時は、各々のデータを表示させることが可能です。また、「ＦＥＡ－０２８」の設定は２台とも同じである必要はありません。一台を「１２００ボー」、もう一台を「６００ボー」のような設定も可能です。これにより、伝送スピード・受信周波数が異なる機器でも比較試験を行うことが可能です。

２．「CDT CONPARISON」のインストール

２－１　インストール

付属ＣＤ－ＲＯＭに収容されている「CDT LINE EXAMINATION」フォルダを、お使いのパソコンの適当な場所にコピーしてください。

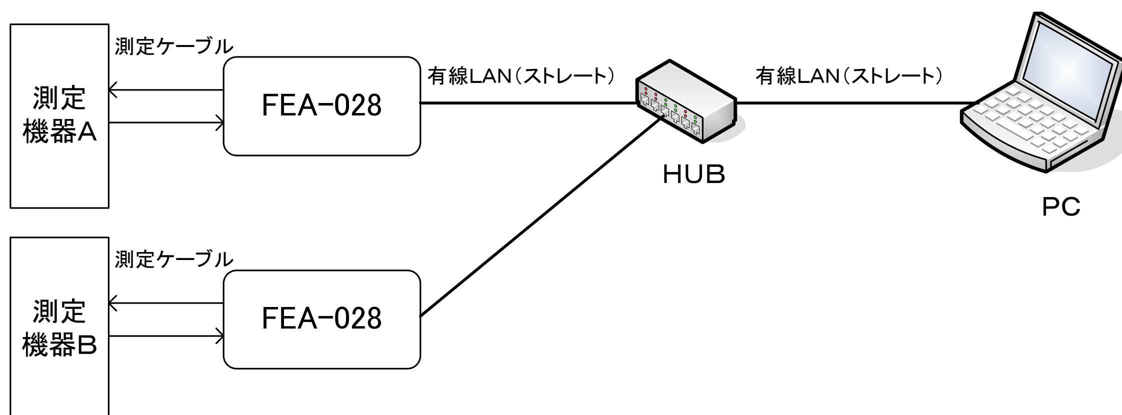
２－２　アンインストール

上記２－１でコピーしたフォルダを、フォルダごと削除してください。
（レジストリ等は変更していません。）

３．使用方法

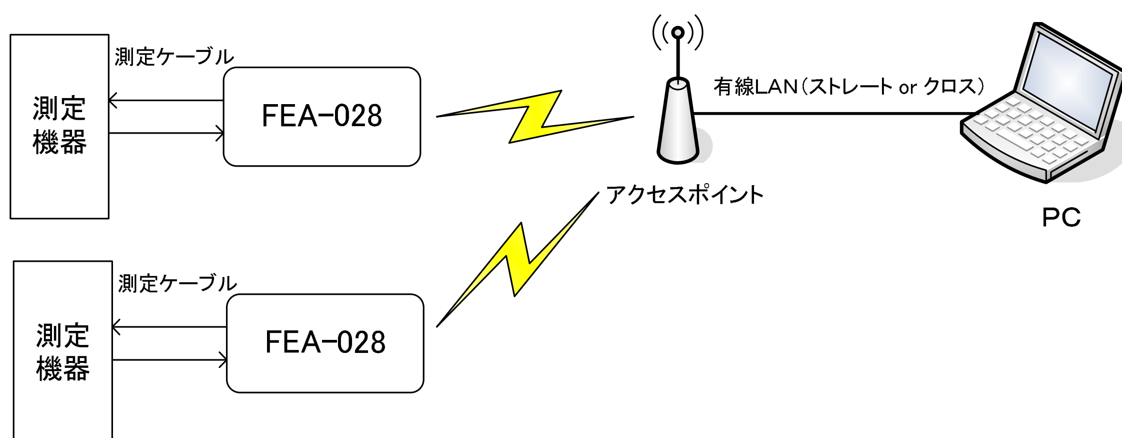
３－１　接続方法

・例１



「ＦＥＡ－０２８」とＰＣをＨＵＢを介して繋ぐ方法です。
（WiPort の設定は[Wired Only]）

・例２



「ＦＥＡ－０２８」とＰＣをアクセスポイントを介して繋ぐ方法です。
（WiPort の設定は[Wireless Only]，[Infrastructure]）

※１　無線ＬＡＮを使用して接続する方法では、電波の状況で稀に誤受信をおこします。なるべく「例１」のように有線ＬＡＮで接続してください。

※２　ＦＥＡ－０２８の設定方法は、「ＦＥＡ－０２８取扱説明書」をご覧下さい。

３－２　ＩＰアドレスの設定

３－２－１　ＰＣのＩＰアドレスの設定１（有線ＬＡＮ接続の場合）

※ここでは「ＦＥＡ－０２８」のＩＰアドレスを 192.168.11.150 に設定しているものとして説明しています。また、「ＦＥＡ－０２８」のその他の設定も完了しているものとします。

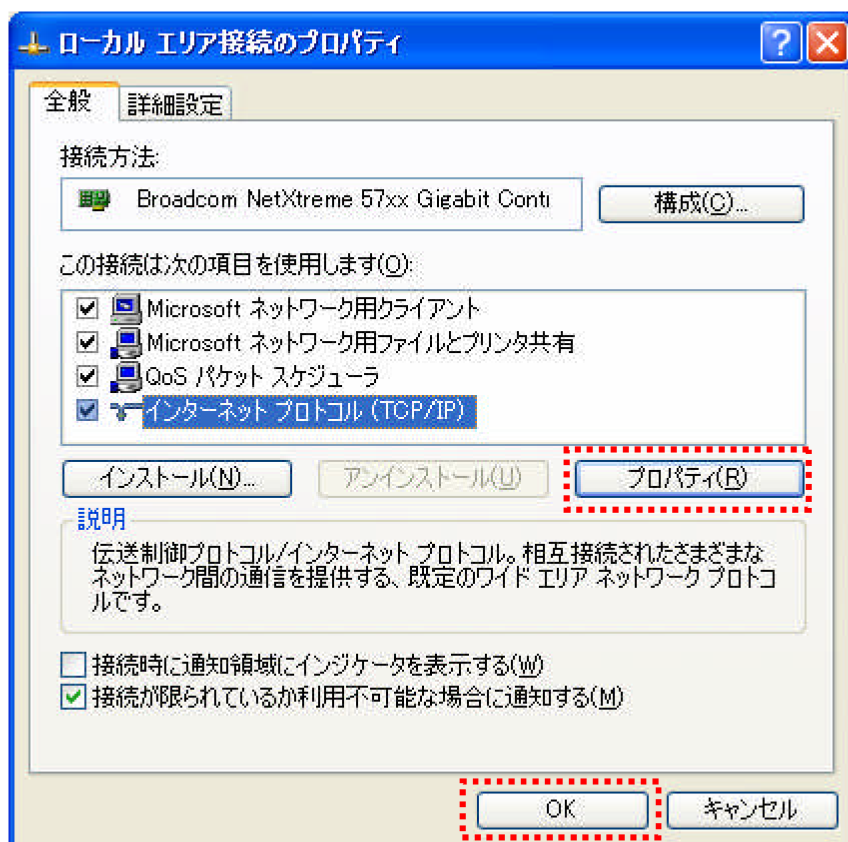
１）上記「接続方法」の「例１」のように接続します。

２）ＡＣアダプターを「ＦＥＡ－０２８」に接続します。

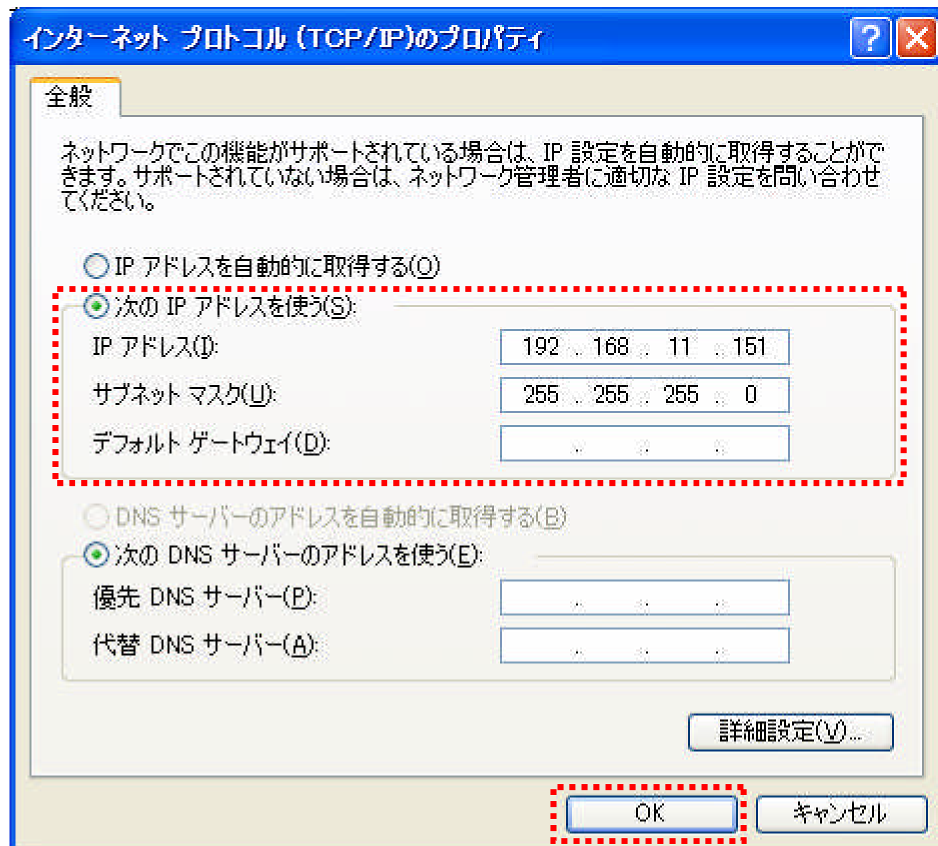
３）ＰＣの「スタート」－「コントロールパネル」から「ネットワーク接続」を選択します。

４）「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

５）「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



６）「次のＩＰアドレスを使う」を選択し、下記のようにＩＰアドレス・サブネットマスクを設定します。



３－２－２　ＩＰアドレスの設定２（無線ＬＡＮの場合）

お使いの無線ＬＡＮ子機によって設定方法が異なります。お使いの無線ＬＡＮ子機の取扱説明書をご覧の上設定してください。

１）上記「接続方法」の「例２」のように接続します。

２）無線ＬＡＮ子機の設定を行ってください。

※１「例２」の接続方法の時は「インフラストラクチャモード」を、お選びください。

※２「SSID」「暗号化方式」「暗号キー」など、必要事項を設定して下さい。

３－３　動作設定

ここでは、「ＦＥＡ－０２８」の各種設定を行います。

「CDT CONPARISON」フォルダ内の「CDT_CONPARISON.exe」をダブルクリックします。すると、下記画面が表示されます。

FEA－028 動作設定

設 定 内 容

IPアドレス設定

受信A 192 . 168 . 11 . 150

受信B 192 . 168 . 11 . 160

FEA-028に登録したIPアドレスを入力してください。 ①

② 【受信A】ボーレート&Ch設定

75Buad ※下記 設定値を参照してください。

③ 【受信B】ボーレート&Ch設定

75Buad ※下記 設定値を参照してください。

【受信A･B】 判定設定

自動 判定　比較回数 1

※比較回数 設定範囲　1～5 回 ④

受信 周波数設定値

75Buad=420±30Hz	200BuadCh.1=800±100Hz	300BuadCh.1=1080±100Hz	1200Buad=1700±400Hz
	200BuadCh.2=1200±100Hz	300BuadCh.2=1750±100Hz	
	200BuadCh.3=1600±100Hz		
	200BuadCh.4=2000±100Hz	600BuadCh.1=1200±200Hz	
	200BuadCh.5=2400±100Hz	600BuadCh.2=1700±200Hz	
	200BuadCh.6=2800±100Hz		

⑤

決 定 ⑥　　終 了 ⑦

１）「ＦＥＡ－０２８」の電源ＳＷをＯＮにします。

２）各種設定を行います。

①ＩＰアドレスの設定

IPアドレス設定

受信A 192 . 168 . 11 . 150

受信B 192 . 168 . 11 . 160

FEA-028に登録したIPアドレスを入力してください。

「ＦＥＡ－０２８」に設定したＩＰアドレスを入力してください。

２台の「ＦＥＡ－０２８」は必ず第４パラメータ以外が同じになるよう設定してください。詳しくは「ＦＥＡ－０２８取扱説明書」をご覧下さい。

②受信Ａ 設定

【受信A】ボーレート&Ch設定
75Buad ※下記 設定値を参照してください。

受信Ａのボーレート or 周波数を⑤を参考して選択してください。
（受信折返しワードは、自動で判定します。）

③受信Ｂ　設定

【受信B】ボーレート&Ch設定
75Buad ※下記 設定値を参照してください。

受信ボーレート or 周波数を⑤を参考して選択してください。
（受信折返しワードは、自動で判定します。）

④受信Ａ・Ｂ　判定設定

【受信A･B】 判定設定
自動 判定 比較回数 1
※比較回数 設定範囲 1~5 回

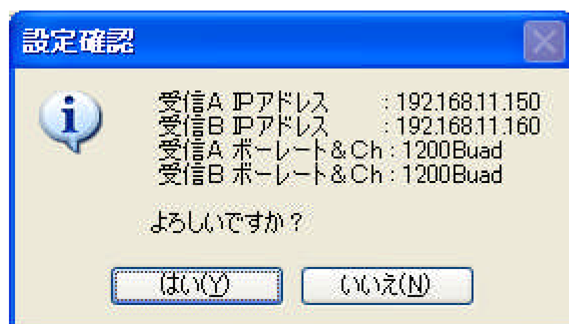
判定を自動で行うか、手動で行うかを選択します。なお、「自動 判定」を選択した場合は、比較回数を設定してください。（１～５回）

⑥決定
　設定完了後、「決定」ボタンをクリックしてください。

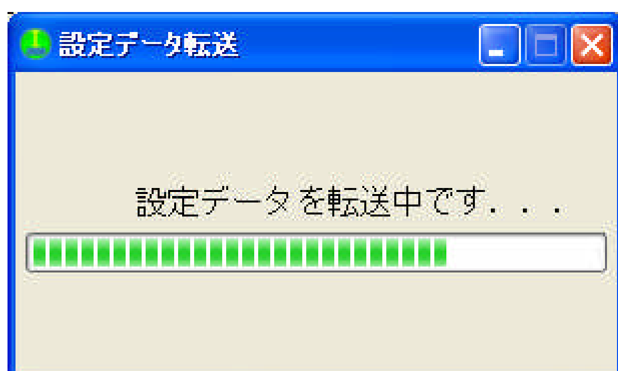
⑦終了
　終了する場合は、「終了」ボタンをクリックしてください。

３）データ転送

上記⑥の「決定」ボタンをクリックすると、下記のように設定確認画面が表示されます。よろしければ「はい」ボタンを、再設定する場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。



「はい」をクリックすると、「ＦＥＡ－０２８」へデータ転送を始めます。



４）エラー表示

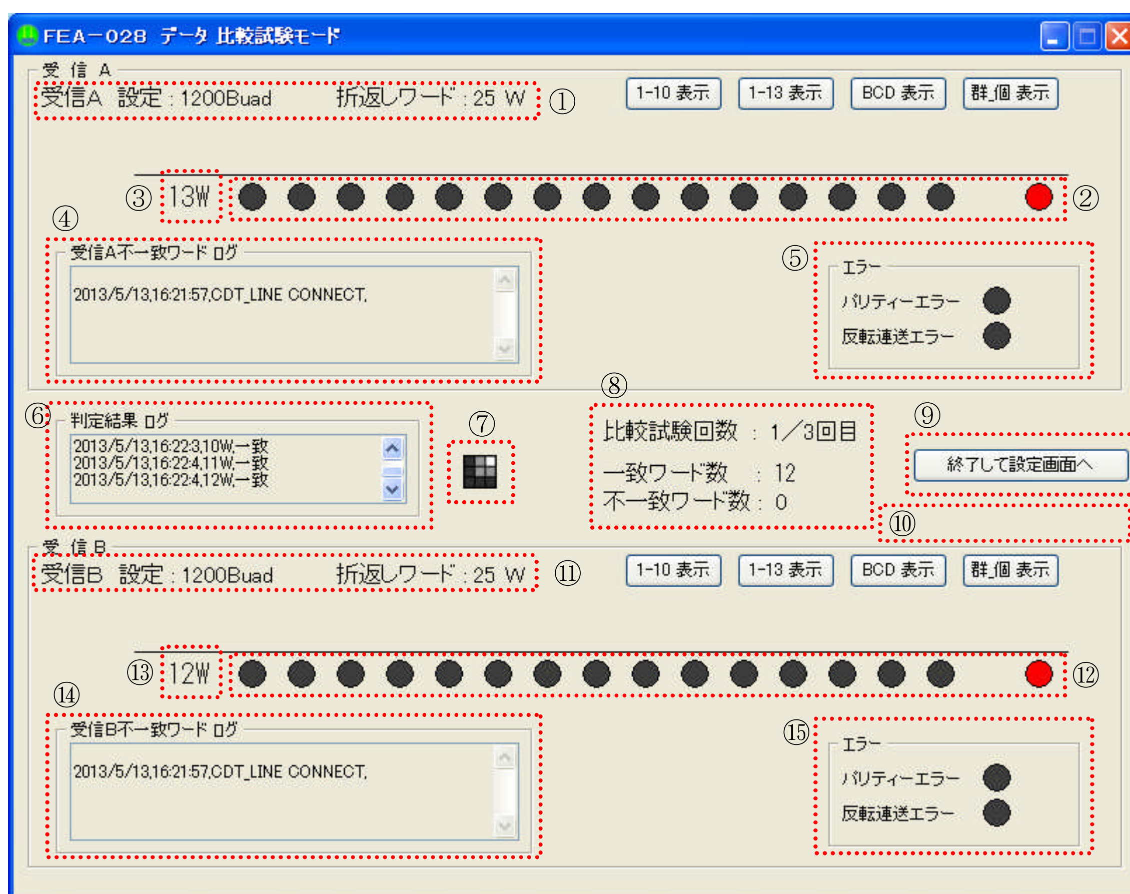
・下記のような画面が表示されたら、ケーブル接続及びＩＰアドレスの設定などを確認してください。



・下記のような画面が表示されたら、「ＦＥＡ－０２８」の電源を一旦ＯＦＦにし、１秒以上間をおいてから電源をＯＮにしてください。その後、２）の①から操作をやり直してください。



３－４　データ比較試験（自動判定）



１）自動判定

①受信Ａで設定した送信設定と折返しワードを表示します。

・受信折返しワード測定中は「折返しワード：測　定　中　」と表示されます。（自動で折返しワードを測定し、測定完了後表示します。）

・回線断を検出した場合は「ＣＤＴ回線　異常！！」と表示されます。

②現在受信Ａで受信中のデータを表示します。

③現在受信Ａで受信中のワードを表示します。

④比較試験の結果、不一致だったワードのログを表示します。(受信Ａ)
ログを保存する場合は、ログ表示画面上で右クリックし、「すべてを選択」を選択します。もう一度右クリックで「コピー」を選択します。メモ帳などのテキストエディタを開き、「ペースト」してください。そのまま保存していただいても結構ですし、保存の際、拡張子を[.csv]にしていただくと、表計算ソフトなどで開くことが出来ます。後から確認される場合はこちらの方法がよろしいかと思います。

⑤受信Ａで現在受信中ワードの「パリティエラー」及び「反転連送エラー」が表示されます。

※　⑪～⑮は受信Ｂでの上記①～⑤の動作と同じです。

⑥比較試験の判定結果ログを表示します。

⑦比較試験中を表します。

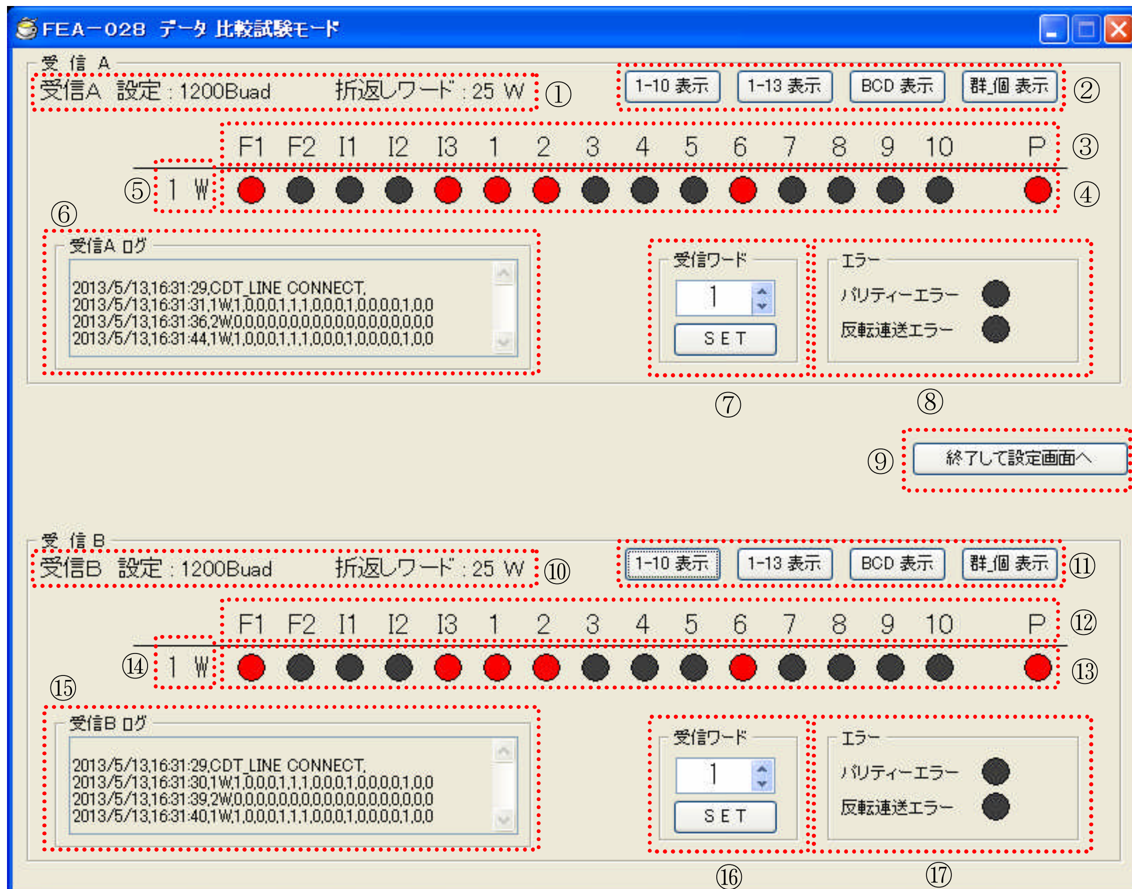
⑧「比較試験回数」「一致ワード数」「不一致ワード数」を表示します。
この際、不一致ワードを検出したらＰＣから「ブブー」と音が出ます。

⑩比較試験終了後「比較試験が終了しました」と表示されます。
この際、不一致ワード数が０だった場合は「ピンポンパンポン」(下がり調子)とＰＣから音が出ます。不一致ワード数が１以上あった場合は、「ピンポンピンポンピンポン」とＰＣから音が出ます。
また、受信Ａで回線異常を検出した場合は「ＣＤＴ回線Ａ 異常検出！」
受信Ｂで回線異常を検出した場合は「ＣＤＴ回線Ｂ 異常検出！」と表示し、試験途中でも比較試験を終了します。

２）終了

⑨「終了して設定画面へ」をクリックすると、設定画面へもどります。

３－５　データ比較試験（手動判定）



１）手動判定

①設定した受信設定と折返しワードを表示します。

受信折返しワード測定中は「折返しワード：測　定　中　」と表示されます。

（自動で折返しワードを測定し、測定完了後表示します。）

回線断を検出した場合は「ＣＤＴ回線　異常！！」と表示されます。

回線断が復帰するともとの表示に戻ります。

②各ボタンをクリックすると、③に表示されるビット名称が変わります。

④現在受信中のデータを表示します。データが変更されれば自動的に変更されます。

⑤現在受信中のワードを表示します。

⑥受信したワードのログを表示します。（データが変更されれば、同ワードの場合もログが残ります。）ログを保存する場合は、ログ表示画面上で右クリックし、「すべてを選択」を選択します。もう一度右クリックで「コピー」を選択します。メモ帳などのテキストエディタを開き、「ペースト」してください。そのまま保存していただいても結構ですし、保存の際、拡張子を

[.csv]にしていただくと、表計算ソフトなどで開くことが出来ます。後から確認される場合はこちらの方法がよろしいかと思います。

⑦受信するワードを設定します。キーボードから入力するか、矢印キーで選択してください。「ＳＥＴ」ボタンをクリックすると変更されます。

⑧現在受信中ワードの「パリティエラー」及び「反転連送エラー」が表示されます。

※　⑩～⑰は受信Ｂでの上記①～⑧の動作と同じです

２）終了

⑨「終了して設定画面へ」をクリックすると、設定画面へもどります。

３－５　ログデータ

ログデータの内容を説明します。

１）判定結果ログデータ

送信ログデータは下記のようになっております。

0000/00/00, 00:00:00, 00W, 00000000

日付　時間　判定ワード　判定結果

２）受信Ａ・受信Ｂログデータ

受信ログデータは下記のようになってます。

0000/00/00, 00:00:00, 00W, 0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0

日付　時間　受信ワード　受信データ

パリティエラー

反転連送エラー

※受信データは、「１」でデータ有り。「０」でデータ無しとなります。